2 しつけ

◇ 正しいしつけは子どもへの大切な贈り物です

〔森信三「しつけの根本原則三カ条」から〕

① あいさつ　朝，必ず親にあいさつをする子にすること

あいさつは子どもが先にするものという考えに固執せず，子どもが気付かないときには，親が先にしましょう。

あいさつは，人と人とのコミュニケーションにとって必要不可欠なものです。あいさつがきちんとできる子に育てることは，子どもの将来を見据えた大切なしつけです。

② 返事　親に呼ばれたら必ず「ハイ」とはっきり返事のできる子にすること

まず，家族間でお互い呼ばれたら「ハイ」と返事をしましょう。「ハイ」という返事は，「相手の言っていることが理解できた」，「しっかり聴き取れた」，「承諾した」という合図です。「ハイ」と返事をした以上，「知らなかった」，「聞こえなかった」という言い訳ができなくなります。この「ハイ」という返事のしつけは，子どもの責任感を育むことにもつながります。

③ 履き物をそろえる

履き物を脱いだら必ずそろえ，席を立ったら必ず椅子を入れる子にすること

子どもが歩けるようになり，靴を履くようになったときから始めると効果的だそうです。「ほら，こうやって並べておくときれいでしょ。」という具合に教えましょう。

脱いだ履き物をそろえることは，後始末をきちんとして次への準備をすることです。このことが「お金のしまり，人間のしまり」にも影響するそうです。

教えて！Q&A

Q　しつけは，いつまでにすればいいのでしょうか？

A　「子どもの年齢に『つ』がつくまでに」と，昔から言われます。

1歳（ひとつ），2歳（ふたつ），3歳（みっつ）・・・9歳（ここのつ）。10歳になると（とお）で，「つ」がつきません。つまり，9歳までにするという言い伝えがあります。

その頃になると，思春期にさしかかり，親のいうことを聞かなくなる年頃でもあります。それまでに基本的なしつけを済ませておくというのは理にかなっているのではないでしょうか。